

バンングラデシユの体制充実

東光商事 日本向け製品輸出強化

東光商事は、アパレルOEM(相手先ブランドによる生産)を手掛けるバンングラデシユ事務所の体制を充実した。生産の海外シフトが加速する中、中国・上海法人とすみ分けながら、日本市場向けの製品輸出を強化する。

東光商事は、アパレルOEM(相手先ブランドによる生産)を手掛けるバンングラデシユ事務所を開設して駐在員を配置するなど拡大する需要を取り込んできた。

今年1月には常駐1人と出張ベースの2人、現地スタッフ5人の体制に増員し、常時7人で受発注や生産管理に対応している。

同事務所では、日本向けに現地の上質な綿や綿・ポリエステルを使った春夏向けTシャツやトレーナー、中国産のポリエステルによる秋冬向けブルゾン、フリース商品など、カットソーを中心に調達。GMS(総合小売業)を主力販路として郊外型専門店にも供給している。

小ロット短納期のオーダーは上海法人に振り分けるなど、発注数量やリードタイム、生産コストの顧客の要望によって海外拠点をすみ分けし、需要にきめ細かく対応する。

今後は布帛の縫製強化に挑戦するほか、将来的に中国素材の内販や欧米市場向けなどの三國間貿易も視野に入れる。

同社のバンングラデシユでの事業は、16年春夏物の大手小売業向けTシャツの輸出で4年前に立ち上げた。その後、中国素材

による秋冬物にアイテムを広げ、17年からタッカ市内に事務所を開設して駐在員を配置するなど拡大する需要を取り込んできた。